

## 「本当の幸せは意外とすぐ近くにある」

いよいよ、冬休みです。このような環境下の中で、今の自分に最も重要なことは何か。足りないことは何か。課題を明確にして、着々と実力をつける冬休みにしてください。今年の冬休み前に「苦味を味わうことを通して味わううま味」の話をしました。

苦味というものをどうしても噛みしめざるをえないのが大人の世界なのです。でもその苦味を味わうという余裕が出来てこそ、人生の「うま味」というものを自分なりに咀嚼できるようになるのです。「苦味を味わうことを通して味わううま味」というものを経験できるようになることこそが大人になるという話をしました。今回は苦味を経験した大人の幸せとは何かをテーマに話をします。

落語家・僧侶の露の団姫さんは学生時代、努力すれば何事も完璧にできると考えていたそうです。比叡山で修業をしている時、人間にはいくら努力をしてもできないことがあることを悟ったそうです。でも「あなたは法華経を楽しくわかりやすく伝えるのが上手ですね」という仲間の言葉に救われたそうです。この気づきのおかげで、私は私に出来ること、得意なことで誰かを幸せにできたらいい、これが最澄上人の言う「一隅を照らす」の意味だと分かったそうです。この気づきで「幸せ」になれたと話しています。

会社員の小沢さんはコロナ禍でおうち時間が増え、昔の私がいかに「プラスの満足」ばかり考えていたかに気づいたそうです。ネイルにまつエク、少し背伸びしてハイブランドのバックにぱっちりヒール。料理では素材の味を台無しにするほど調味料を使い、収納グッズを集めた結果、物を増やしていたそうです。買い足すことを考えるより、世の中は「引いていくくらいがちょうどいい」。今では、いかに肌、爪、髪を健康に保つか、野菜の甘みや、うま味がしみ出たスープをつくるかに気を使っているそうです。そんな時間が幸せだそうです。

主婦の正木さんの望む幸せは、一晩を通してぐっすり眠れること、そして、朝、スッキリと目が覚めることだそうです。日々穏やかに過ごせて、苦勞して私を育ててくれた母親が笑顔でいることだそうです。

「本当の幸せは意外とすぐ近くにある」のではないのでしょうか。だから、人生の苦味を経験している大人は、当たり前なのに幸せを感じられるのではないのでしょうか。この冬休み、「幸せ」に関して、家族と考えてみてください。

2学年主任 福原 亨

1月の行事予定	保護者様へ
11日(火) 3学期始業式 28日(金) 29日(土) 立志スキー学習	＜お知らせ・お願い＞。 *感染防止をお願いします。事故のないように。

